

はしか流行中

暖かくなりました。ゴールデンウィーク中お仕事だった方、お疲れ様です。お休みだった方もリフレッシュできましたか。連休中は人流が増え、海外からも多くの方が来られたり海外に行き感染が持ち込まれることも考えられます。昨年以降、はしかの感染拡大が注目されています。そこで、今回ははしかについて取り上げます。

はしかの特徴と経過：はしかは以下のような経過をとります。

期間	潜伏期	カタル期	発疹期	回復期
日数	10～12日間	2～4日目 (発症から)	3～4日目 (発症から)	7～9日目 (発症から)
症状		38℃前後の熱 咳・くしゃみ・鼻汁・目の充血	39～40℃の発熱 発疹出現	解熱 発疹が消退し、色素沈着が残る
感染力		感染力が最も強い	感染力あり	解熱後3日ほど経過するまで感染力あり

家庭内等の密接した環境で免疫のない人が感染者と接触した場合、約90%が感染すると報告されており、海外ではアメリカやイギリスなどで発症者が増加しているようです。はしかはワクチン接種で防げる病気です。「子供の病気」と考えられがちですが、現在流行している年代は10～40代のワクチン未接種者です。

2026年 はしかの罹患・免疫傾向

- 若年・成人層（10代後半～40代）**：1970年代後半から2000年代にかけてはワクチン接種が1回だったため、免疫が不十分なケースが多く、現在の感染中心世代です。このような方々は**ワクチンの追加接種をご検討ください**。
- 乳幼児（2歳以下）**：感染力が非常に強いため、予防接種（1歳以上）を完了していない乳幼児も高リスクです。
- 50歳以上**：多くが過去に自然感染しているため、現在の報告例は少ない傾向にあります。ワクチンの接種歴は母子手帳で確認できます。この機会に一度確認してみたいはいかがでしょうか？

感受性職員が接触した場合

接触後72時間以内であればワクチンを緊急接種就業制限の目安：最初の曝露後5日～最後の曝露後21日（ワクチン接種の有無にかかわらず）

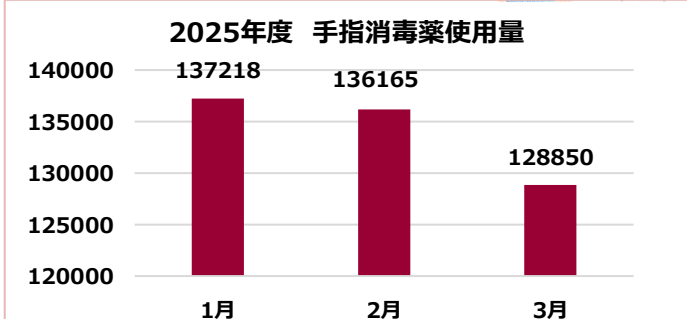
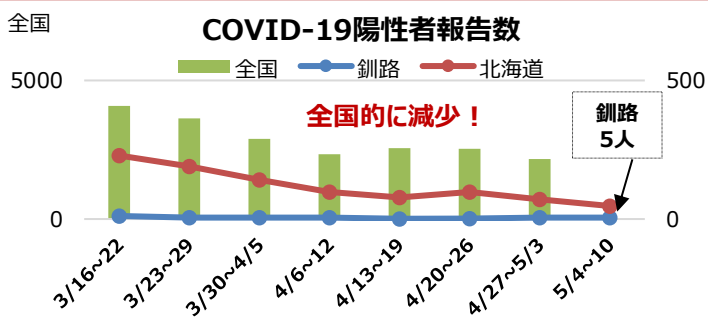
医療従事者が発症した場合の就業停止の目安：発疹出現後4日間

感染対策：感染による自然免疫は終生免疫となります。

- ・N95マスクに加え個人防護具を着用する
- ・患者対応は麻疹ウイルスに対する免疫を獲得している者が優先して行う
- ・**ワクチン接種が最も効果的。2回接種必要。**

修飾麻疹とは？

1回のワクチン接種を受けた方や、過去に接種歴のある方が麻しんに感染した場合、典型的な経過をたどらない場合を「修飾麻疹」といいます。症状が軽いことが多く気づきにくいですが感染力は変わらないため注意が必要です。



新型コロナウイルス感染症が5類に移行して5/8で3年が経過。朝日新聞によると未だに日本人の死因の8位（特に高齢者）。手を抜かず、十分注意していきましょう。

新型コロナウイルス感染症対策のお願い

発熱などの有症状時は直接受診することは控え、病院へ連絡してから来院して下さい。当院への受診の際は必ず、マスク着用をお願いします。また、受診時の付き添いの方は1名までとさせていただきます。面会は個々の患者さんの状態に応じて対応しています。陽性の方は症状悪化した場合等は診断を受けた医療機関へご相談下さい。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。